



芭蕉袖草紙  
二  
人

中村俊定文庫  
文庫 18  
763  
2





和歌

春

正月

立春

草も木もさかすけくはなは 京 貞徳

朝夕の人ささけし 木并 宗因

またつてゆき九日 一 色蕉

またつてゆき 十 野坡

春もや 蘭茶 三 許六

花も 二 杉風

春のつゆ た 牧童

花 ナ 園女

羽印 イ 半残



花屋庵校





采花もごとく用さる花は 京尾 諸九

元月 之月も晴て雀のついで 下 嵐雪

元月 之月も宗家の儀の太刀は 京 去来

之月もすゝ偶くハ雪は カ 良品

之月も雪がふむ人懐く カ 也有

之月も雪もあつて 大 大宛

初智 之月もねと五尺の蕪や 京 蘭更

初智 之月もねと五尺の蕪や 京 蘭更

初雪 之月もねと五尺の蕪や 京 如泉

新草 之月もねと五尺の蕪や イカ 風麦

初鳥 之月もねと五尺の蕪や 李 馬明

初鳥 之月もねと五尺の蕪や 李 馬明

初鶴 之月もねと五尺の蕪や 二 二柳

初鶴 之月もねと五尺の蕪や 半 半自

初鶴 之月もねと五尺の蕪や 金 金羅

初夏 之月もねと五尺の蕪や エト 其角

初夏 之月もねと五尺の蕪や 京 李吟

初霞 之月もねと五尺の蕪や 濁 濁子

初霞 之月もねと五尺の蕪や 干 干代

御降 之月もねと五尺の蕪や 京 晩山

若水 之月もねと五尺の蕪や 乙 乙由

若水 之月もねと五尺の蕪や 二 二柳

若水 之月もねと五尺の蕪や 本 夏江

年男 之月もねと五尺の蕪や イカ 配力

年男 之月もねと五尺の蕪や 永 永園

門松 之月もねと五尺の蕪や 去 去来

門松 之月もねと五尺の蕪や 希 希因

門松 之月もねと五尺の蕪や 也 也有

門飾 之月もねと五尺の蕪や

門飾 之月もねと五尺の蕪や



松飾 世園もよほすに松飾り カ 昔本

齒朶 三月廿五日とて妙齒朶間 可俊

蓬萊 カ 蓬萊の更とひらきとて カ 山店

カ 蓬萊の更とひらきとて カ 山店

獨舞 からいぬやまの カ 獨舞 カ 乙由

カ 獨舞 カ 乙由

楪 由緒 カ 楪 カ 似船

書初 書初 カ 書初 カ 清門

カ 書初 カ 清門

初展 初展 カ 初展 カ 青羅

正月 正月 カ 正月 カ 万子

カ 正月 カ 万子

カ 正月 カ 万子

カ 正月 カ 万子

カ 正月 カ 万子

子曰 いろいろねむらぬ カ 去来

カ 子曰 カ 去来

小松引 小松引 カ 小松引 カ 青羅

カ 小松引 カ 青羅

カ 小松引 カ 青羅

カ 小松引 カ 青羅

カ 小松引 カ 青羅

カ 小松引 カ 青羅

茶 茶 カ 茶 カ 芭蕉

カ 茶 カ 芭蕉

カ 茶 カ 芭蕉

カ 茶 カ 芭蕉

カ 茶 カ 芭蕉

養菜 養菜 カ 養菜 カ 支考



柳の味のほくやの葉は白く 桃如

一株の牡丹はさくらにこころれうか 尾頭

船やうは石ふきこねるるまき 正秀

えつしは通ふまらるるあふれ 幾重

るる葉摘んたあひのあを川 暁臺

付箋やふもく紙をわふつと 希因

万葉やあふもく紙をわふつと 梅盛

万葉やあふもく紙をわふつと 騨道

万葉やあふもく紙をわふつと 千代

猿皮 搦まよつとまやさるはし 巴肆

左義法 たともやうこれ相成り 旭芳

前摺 一とやや前あふもく紙をわふつと 友静

後入 やあ入の二人よあまてまらるる 宗美

やあ入の二人よあまてまらるる 押崎

やあ入の二人よあまてまらるる 青蘿

柳忌 柳忌の神時あふもく紙をわふつと 燕村

赤水あふもく紙をわふつと 重厚

梅 梅うふ遊りあふもく紙をわふつと 芭蕉

なうけの岸つとさう 梅の花 桐雨

さう歌う梅あふもく紙をわふつと 野水

ふつひゆくをまらるる 梅の花 諷竹

寺の名いれをわふつと 梅の花 孝由

世帯のよのうをわふつと 梅の花 嵐竹

万葉の拍子あふもく紙をわふつと 史明

梅うやあふもく紙をわふつと 斜嶺

白ふりし梅あふもく紙をわふつと 勺堂

二月かとうあふもく紙をわふつと 支考



梅まゝの如くはなと日の月 園女  
 仄暗くは梅の心極新れ 凡れ  
 梅はまの月影の如くは 惟然  
 ちぢく梅の心は花 千代  
 酔ふまゝの如くは 希因  
 梅の心は花の如くは 青蘿  
 月の梅の心は花の如くは 二柳  
 梅の心は花の如くは 風律  
 本知まゝの如くは 蓼太  
 灯の如くは人の如くは 蕪村  
 梅の心は花の如くは 千代  
 大の如くは梅の心は花の如くは 凡重  
 羽衣の如くは梅の心は花の如くは 諸九  
 梅の心は花の如くは 木采

柳

梅の如くは花の如くは 園女  
 一風情の如くは梅の心は花の如くは 由平  
 水音の如くは梅の心は花の如くは 酒堂  
 雪の如くは梅の心は花の如くは 支考  
 我々の如くは梅の心は花の如くは 如元  
 川流の如くは梅の心は花の如くは 岱水  
 梅の如くは花の如くは 支考  
 五六の如くは梅の心は花の如くは 去来  
 梅の如くは花の如くは 巴兮  
 梅の如くは花の如くは 蕪村  
 の如くは梅の心は花の如くは 曉臺  
 道の如くは梅の心は花の如くは 蘭更  
 梅の如くは花の如くは 蕪村



青柳はしらうも静し 千代

ふらふらかけて遠目れ柳か 青蘿

ふみ散ふ雪もしらうも柳か 木奈

たもとも何ふもよても柳か 希因

ま柳やまも雪の地かうら 蓼太

下萌 下萌もいさるぬは柳かまか 惟然

草芽 その芽の上より下萌遠うれ 和之

着舟 舟科や船もふすしりぬもえ 鬼市

春 舟やねよつらうの辰の辰 此筋

春 舟のよふ若れつひ初や春雪ま 乙由

日のよひや片菰車よまこれ州 紫曉

留つらふ小舟もきやまはま 二柳

落葉 葉かちんも起る露の光 子祐

芥 芥摘や白ひつらるはるの辰 十丈

鶴の音あつらひはす根芥か 諸九

牙返 於よももえうたな月取うれ 文草

齒心のみやうらるる軽く柳 大江丸

春寒 けいこもれをのほけや馬か兜 二柳

餘寒 暖くけい梅もはるる餘寒か 文素

春霜 於くけや立木のくさるこれ寒 一嵐

南天の鴨声すももものもぬ 莫二

春登 今一依炭火買つらまこれ雪 支考

まれ雪吹かふらして程きし 蓼太

まれ雪原くもくもはは柳 蘭更

雪の息も清くくもふれ雪 可董



雪解

雪をけりて青やねま令<sup>レ</sup>岸 氷固  
雪をけりて青やねま令<sup>レ</sup>岸 氷固  
雪をけりて青やねま令<sup>レ</sup>岸 氷固

氷解

氷をけりて解<sup>レ</sup>けのひうし<sup>カ</sup> 唐介  
氷をけりて解<sup>レ</sup>けのひうし<sup>カ</sup> 唐介  
氷をけりて解<sup>レ</sup>けのひうし<sup>カ</sup> 唐介

霞

霧をけりて日さぬ<sup>レ</sup>夕のひみ 北枝  
霧をけりて日さぬ<sup>レ</sup>夕のひみ 北枝  
霧をけりて日さぬ<sup>レ</sup>夕のひみ 北枝

春嵐

春の嵐 夕の嵐 夕の嵐 夕の嵐  
春の嵐 夕の嵐 夕の嵐 夕の嵐  
春の嵐 夕の嵐 夕の嵐 夕の嵐

春雨

春雨の降るや 水田 馬印  
春雨の降るや 水田 馬印  
春雨の降るや 水田 馬印

鶯

鶯の鳴くや 柳の枝 芭蕉  
鶯の鳴くや 柳の枝 芭蕉  
鶯の鳴くや 柳の枝 芭蕉



雪やれのしの敷の風さう 野坡  
 鶯と雪さうさう 萩のうら 若本  
 雪のこふくさきや井れお 比叺  
 雪のつらさおあかたれら 夢太  
 雪やれくさくさの又つらし 智月  
 雪やれ雪の宿の宿の宿 兼露  
 雪の指成えさう 相づれ 堤亭  
 雪のこふくささうさうのやと 猿雄  
 雪のさうさうさうさうさう 南里  
 雪のふさふささうさうさう 壺中  
 雪の松さうさうさうさう 弁七  
 雪やれ岩のたもあつ初る 梨一  
 雪のふさふささうさうさう 斗入  
 雪の雪さうさうさうさう 山只

白鳥

傀儡の布れあつらさう 夏江

白鳥は便あつらさうさう 芭蕉

白鳥やるさうさうさう 枳風

白鳥やれさうさうさう 安眠

白鳥のちう様さうさうさう 又翁

白鳥は梅さうさうさう 青蘿

猫老

猫のほろ麗のつれさう 芭蕉

猫のほろ麗のつれさう 去来

猫のほろ麗のつれさう 露川

猫のほろ麗のつれさう 史邦

猫のほろ麗のつれさう 二柳

猫のほろ麗のつれさう 千代

猫のほろ麗のつれさう

猫のほろ麗のつれさう 素鈎



二月

二月 花見の本いさほしは二月廿 孝考

おぼろ三日流るる二月廿 大元

おぼろ三日流るる二月廿 二柳

おぼろ三日流るる二月廿 青蘿

おぼろ三日流るる二月廿 大魯

おぼろ三日流るる二月廿 松元

二月 夜 秋の思ひとれぬ二月廿 免土

お雷 秋雷初憚つる二月廿 玉井

お午 秋午や秋のふし松元一秋 二柳

お午や大勢はるる同日 豊里

お午や多しおぼろの鶴声 蕪村

後春 いたつ小柿橋ておぼろ人知 昔人

おしもの力つひさるひんぬ 杉風

隠集 振誠よほしや狂人の茶呑時 正秀

おしん思の事と紙子もあか 李由

一ふいそておまうくおぼろ人知 李東

俳句 大は強よとぬ俳のふくれ 希南

春月 ともしとやあけつれめてとち力 捨石

くらねとこは燈るはしとちの月 曉臺

おぼろ三日流るる二月廿 大江丸

臘月 とも豆の煮る白ひや掛月 史邦

我つ小りうてとちや掛月 芦角

桑の心のくまやねるる月 春椿

源うとくは流ておぼろ掛月 梅貞

とちのふしとちのふし掛月 希周

雪のまに竹とちのふし掛月 青蘿



三月のまじくねく掛ふ 也有

掛板 掛板や塀の栞木ゆきの糞 徐寅

春板 そのおやんといひうけのこ次 知白

春日 春板や小ねいふも 杜若

春板 春板や雀の砂活て 鬼貫

春板 春板の牡丹ふきよて 晚翠

春板 春板て鹿のさきいふ 圃更

水日 水日や仲ら木ゆきの音 野水

水日 水日や月一にして波の波 素九

水日 水日の西よきてさきゆ 枚光

暎 暎らして暖さし 浦田 知白

暎 暎や鶉の糞ふふ浦つて 古帆

長閑 長閑とふゆいと思ふおねや 杜國

陽炎 かけらや川のゆきの蛇ら 范宇

かけらや 佳氣血ふるの上 酒堂

陽を分けし 羽たの鳥ね 和泉

てらけりや 陽をけしきり 史邦

陽をけしきり ぬきぬき 梨一

陽をけしきり ぬきぬき 蕉下

陽をけしきり ぬきぬき 其繼

陽をけしきり ぬきぬき 曲翠

陽をけしきり ぬきぬき 白圖

陽をけしきり ぬきぬき 芭蕉

陽をけしきり ぬきぬき 乙州

陽をけしきり ぬきぬき 乱縁

陽をけしきり ぬきぬき 蝶夢

陽をけしきり ぬきぬき 圃更

陽をけしきり ぬきぬき 青蘿

陽をけしきり ぬきぬき 青蘿

未遊

春水



水檻

おのしこへ抱ひあつく春の水 大江元  
あぬさむいやく白濁もねり引兒 阿誰

種蒔

種つけて隅より川に 辨石  
種蒔や属のふふいし 民古

麻蒔

麻蒔や子直小庵のつらぬら 暁雨

畑蒔

畑蒔や刀ふくし 泉車  
うこくともてえて畑蒔男うれ 去来

山焼

山焼や若魂の味いあけつら 布舟  
りくち里の畑蒔のほろ 暁臺

焼野

焼野や我家もてえこれら 蕪村  
りやくと音と吹出す焼野 呼丁

薙草

薙草の世と若ととらほり 芭蕉  
山をうついまてうた本草 牧童

本草

本草は草やまき湯治とふれ 淡々  
食ふや本草れつものこふれ 會粘

橋本

橋本の中かきこえはぬつとけ 淳見  
十か小五かうけの橋本 杜宇

石橋

石橋やぬえつら玉 芭蕉  
石橋や小石やまの石とつら 布舟

櫓

櫓のまねてしなす櫓うれ 芭蕉  
もふあて櫓まけら櫓 桃隣  
ま風まけら櫓のまけら 野坡  
まらふも水うきしぬ櫓 是水  
谷のぬいあうり明て白楨 二桺  
一山のまねあつら櫓 馬印



紫重 紫重

園更 園更

青蘿 青蘿

涼苑 涼苑

夏江 夏江

暹望 暹望

龍石 龍石

佳南 佳南

曉臺 曉臺

蓼太 蓼太

野坡 野坡

紅石 紅石

樸夏 樸夏

羅人 羅人

千代

嵐 嵐

兒童

大丸

吐葉 吐葉

杏林

獨活 獨活

嵐雪

五加木 五加木

芙蓉

菖蒲 菖蒲

路通

蒲英 蒲英

牧童



たんのちんちんこころへて伸上のびあ 雲郎

芥末 蔦もやまろくふ笑る芥末花 其角

菜花 菜島まろくおと教する芥末花 芭蕉

母くまやふかぬのこころの縁 来山

ふのこれ小舟ふくや旭光 東明

ふのこれや島草の大いふう 毛純

ふのこれのこころにふくおれ 曉臺

芥末芥末 菜の花をみる中眠るやねのみ 窓巴

蛙蛙 蛙の子のふれぬいくたに非か 雨拍

一いふ青ふもぬく京 蛙乳 和及

指ささる人こころにふる蛙か 涼菟

られあつる日のしけぬお蛙 諸九

接接る日ぬぬくい蛙乳 乙由

風流てふあやふふ鳴 蛙 大江九

およく時よんまねまの蛙非 蕪村

雨やにともくのふくく蛙非 千代

田代水のともくぬかお鳴蛙 青蘿

雪圍やあかぬふかお鳴蛙 風律

やいふぬ鳴るのふれかすか 一笑

世の家ひくくやとてぬ鳴蛙 流志

てふのぬとくくお鳴蛙か け非 芭蕉

てふのぬとくくお鳴蛙か け非 園女

雪のふあつらふてふくか 土才

蜂 蜂のこころ一間くは兄弟京 蘭二

蜂のこころ可也か け非か け非か 大江丸

田代 いくちぬ中ふ吏ふや田より 支考



くふめくはらうらうら田原部 愚心

陸より舟生の水田部 曉臺

春房 屍声はふと鳴あうもけつ 鞍風

一ねつて飛ぶ鳥さうしきれ 二柵

鳥房 うえそおきてやねすの煙房 大草

けさこめいんるるよ小田の丁 大魯

破の家の茶植まけんころ丁 春幾

丁けて門田もきくおひあふ 蕪村

ゆきくころうらうら小田が 涼菟

日のさくらやまかきうてうら丁 方廣

引形 引つゝのきやねつれて破の力 后覺

引つゝつゝつゝつゝつゝつゝ 古帆

引形 雪よもつはとえけてくつゝつゝ 未拙

引形 雪よもつはとえけてくつゝつゝ 未拙

鳥歸 扱心くころうらぬもみねきさう 斗入

雲雀 砂川や芝上流てぬくいろ 許六

ふるくはよ流よつてまんじり 惟然

かせ骨以出でてきやねねね 浪化

よきよ小峰とからくもついろ 南甬

枝の本れきより上るいろが 北童

氷のくは流るいろりきの中 北枝

若菜の作向初るいろりき 乙由

吹風よ不定ちぬいろりき 風國

畑よ小葉一かけいろりき 羅川

けさこめいんるるよ小田の丁 如行

小田の風やんころうら 柀材

いろりきやんころうらとまておる 榮枝

雉 時と横よねらびく紙の甲とけ 一保



ねのいまの町さふ似る船聲 千那  
 とつとあふむのうらひ船の聲 京 吾仲  
 大佛やうしろはひく船の聲 蝶夢  
 からつとさまの風有さうの声 二柳  
 船つてはなは成儀しひとが 蘓守  
 燕 水甫  
 燕 也  
 燕 長水  
 大和ゆけまもろくも燕 燕村  
 燕 空應  
 燕 伏青  
 燕 古帆  
 呼 以琴  
 牡丹花の庭に果つるまよ 三千風

若船 才磨  
 小船 為有  
 船波 露言  
 愧 大元  
 夕照やまのうら 圃更  
 村 昆明  
 村 惺和  
 陰 由平  
 陰 圃更  
 寄 天垂  
 海 芭蕉  
 海 尺州  
 原 紫曉  
 原 行流



市中やふるふけり 几中 涼菟

夕之れのものうねる 巾几中 才麿

切てやるをくぬきやいのう 曉臺

几中さうくへるん安菟黒田 大江

いづるんたのよのそものけり 燕村

三月

二月 二月や清あるの蔵まうて 信徳

弥生 ころく風や生生の水の音 東義

雛 雛志すふ枝のまうやとれ月 荊口

雛さらの列やあう後の声 國之

雛の飯をれさう抱え旭の影 吾仲

雛の間まうとれてふれ佛が 曉臺

松柳さうる雛の顔はよ 蝶夢

すけける壁不のうりし紙幣 雪芝

親よりむひらめと中人役 其角

松風とよまうるうりてか 轍士

小浜おとふゆてのねたえ水 二柳

出代 出代中人はやの二日月 也有

出代や牛合息して小糸止 其角

出代の井戸はハ流きと契うね 大江

ふま ぶく病まうれさきおのふか 子那

まお ゆく菊の公けりしれとれ水 寄節

花 けいりこやをれあうりの燈籠 芭蕉

後もくれも花やらふ十六六 今我

早きは女まものうけり堂 言水

花の雨網成埃とるくろく 仙化

春の跡てたてまうけり 立志



花さうつゆもそいぬ法沙ハシ 三止  
 生い又羽生来て後人子コの下 千那  
 花成す日教は汚す衣キ 素来  
 花をよみあやうや小娘メ 千梅  
 花さうもあまきもあはす花の元 丈艸  
 花さうもあまきもあはす花の元 北枝  
 花さうもあまきもあはす花の元 路通  
 花さうもあまきもあはす花の元 漁川  
 花さうもあまきもあはす花の元 千梅  
 花さうもあまきもあはす花の元 風騒  
 花さうもあまきもあはす花の元 正秀  
 花さうもあまきもあはす花の元 如體  
 花さうもあまきもあはす花の元 杉風  
 花さうもあまきもあはす花の元 朱拙

傘さして揮あひもせぬ花さう 桃隣  
 花さうもあまきもあはす花の元 荳葉  
 花さうもあまきもあはす花の元 去来  
 花さうもあまきもあはす花の元 空芽  
 花さうもあまきもあはす花の元 李由  
 花さうもあまきもあはす花の元 智月  
 花さうもあまきもあはす花の元 嵐雪  
 花さうもあまきもあはす花の元 卯七  
 花さうもあまきもあはす花の元 虎通  
 花さうもあまきもあはす花の元 一音  
 花さうもあまきもあはす花の元 其角  
 花さうもあまきもあはす花の元 松兄  
 花さうもあまきもあはす花の元 大江丸  
 花さうもあまきもあはす花の元 史邦



栂

振うて飯をせうりたうり 山店  
 向ふふの村のうらうら 其角  
 庭くも庭ふもさうらうら 尾頭  
 たいてこの庭の園形や山栂 千那  
 後ゆく人に何くふふさうら 柳玉  
 見えふさうらさうらさうら 許六  
 つうしつと門まわらうて栂野 一洞  
 大井のうらふさうらやさうら 木導  
 裏者のなるあつらんさうら 李由  
 山さうらさうらさうらさうら 采密  
 大名のうらふさうらさうら 汶村  
 おけさうらや紙さうらさうら 曉臺  
 百ふの山村と雁むさうら 許六  
 やくふさうらさうらさうら 竹阿

滝栂

栂

又ふふのと種なつて山栂 関雲  
 世の中は三日の間にさうら 蓼太  
 赤木よと人の栂さうら 松元  
 又つけさうら日さ栂いさうら 千明  
 源山本とさうら山栂さうら 驛道  
 一本つ栂さうらさうら雨やとり 木采  
 枯竹のせとやうさ栂さうら 枯竹  
 一本さうらさうら人さ栂さうら 也有  
 栂のりけさうらさうら山栂さうら 羅城  
 さうらさうらさうらさうら栂のさ 湖雀  
 さうらさうらさうらさうら栂のさ 希周  
 冷石のさうらさうらさうら 曲翠  
 鶴のさうらさうらさうら栂のさ 荻人  
 さうらさうらさうらさうら栂のさ 青羅



日ふらりし花もあけぬの死 曉臺

千の心こゝろいしあまの柳なる 千代

梨の花のほろも昔のふれぬ 汶村

除風

支考

打んふ秋の歌ふー 梨の花 也有

音死 嘆つれてふらけらるる昔のれ 楢丸

海棠 海棠のいりぬおたふし眠り 普業

海棠 海棠のいりぬおたふし眠り 普業

本蓮花 雨ふつてしるすてぬる本蓮花 言路

躑躅 文鳥

文牒

沾冊

沾高

門まけりかありー 女 二柳

森 山あかきつてしるすてぬる 千那

流のりらるる花のれぬ 曉臺

常のれらるる花のれぬ 千代

まらぬのさく本花のれぬ 蓼太

蓮花 蓮花のいりぬおたふし眠り 麦由

山吹 山吹のいりぬおたふし眠り 二柳

望翠

蘭更

惟中

句空

花洲

朋水

支幽



園女  
 諸九  
 園更  
 曉臺  
 二研  
 松元  
 芦文  
 正秀  
 何狂  
 寒白  
 敏實  
 許六  
 柳居  
 古帆

一鳳  
 有庸  
 古帆  
 園更  
 愚心  
 沙明  
 楓鹿  
 沾律  
 嵐竹  
 如行  
 惟然  
 嵐青  
 諸九  
 青蘆



山妻の日はなほ一を着る水 浅見  
 山妻や着るはれはのこるゆき 大魯  
 山妻や着るはれはのこるゆき 野水  
 山妻や着るはれはのこるゆき 曠臺

夏

四月

白重 夜なる傍おうつらー白重 嵐雪

更衣 庭屋の暖着白一衣うえ 利牛

衣之山に重とれたあつれ 乙由

夜よりやれとあや衣之 雪芝

衣之山中に日南風入はり 幸木

とちと衣にひらひらあや衣 鬼貫

西りも娘おとちとあや衣 支考

塩魚のうふと月とあや衣 嵐雪

名聞かこもれとあや衣 露沾

衣之とちとあや衣 嵐蘭

音とちとあや衣 蘭更

けちとあや衣のせつ衣之 蕪村



給 由くおうそくして生くる後、ぬ 乙由

二日三日夕のそひぬる給が 千代

跡接 跡ぬきや折のそひつらぐ 木固

跡ぬいてあふふさのやたの夏 青蘿

跡ぬき色くふけさの娘の赤 捕茅

青麩 ころころいひよりのたか青茅 鬼七

青圍ふて風がー青とれ 馬肝

四月 ころくと四月の心やぬ前 竹平

碧やれてあてけその四月が 曉臺

管の葉の木ふらうら 四月が 斗入

卯月 ころくぬたをぬりけりけり 蘭更

大奈殿

夢系 州の由糸の車さこのち 蕪村

夢つら小夢ころけくる糸が 蘭更

珠供粮 祈る色うさふぬる小糸が 蕪村

灌佛 灌仏やととすあち寺の児 其角

灌仏や我死と泣きさう海 毛純

佛生書 くらぬ糸の唐用くや仏生會 乙由

花柳堂 いろ／＼の朝の／＼くや花柳堂

花柳堂を居よいたん湯併 二柳

一夏 初瀬山一夏清く病後あらん 曉臺

夏花 夏よりのらんかを巻一きし飛 白雄

夏花 夏ふらつやん牡丹いさなうら 二柳

夏書 ふふくはの昔風志のよ夏去れ

夏衣 夏衣と言ふあやや澄のよ 知義

夏衣の園いよるたつたす 蕪村

月い月おけい夏衣しこのれり 曉臺

夏衣や折のぬよのこ言ふと 二柳



いこころ人のまろくも守

系よめて糸ぬつりやふと見す

時き清いもやま一り

さうぬやうよ人いりては

たふさういりては

時き二つの橋の後の糸

ふとよふや平屋におも

本城こつこ本まうつる

そゆてと井まうつる

夕ちけやなうくと

きよの白ひまうし

時きや田植の

杜さうぬあふ

芭蕉

鬼貫

牧童

惟然

萬年

壽仙

千那

山店

千色

洒堂

北枝

野坡

糸を通りて麻のそ

川紙の逢中よそ

糸茶古茶や流

あふの日は

り地は月の

時き二夢

時きさう

ふと見す

あふ

時きやう

子知度の

時き

遅蒔の

男と

千梅

丈艸

諷竹

希因

嵐雪

浪化

言水

杉風

文艸

岱水

瓢水

橋長

一音

千代



布敷

かしこふらぬきや中時ち 蓼太  
 うしろ窓かむくまかかこち 後継  
 えささこしゆきも本もぬれんこち 隈子  
 かかこちすの梅の枝よ啼 二柳  
 日しゆぬ日しゆぬやあかこち 青蘿  
 わよの本のこもぬれぬかこち 儿董  
 ぬれぬ布ふぬぬるぬぬち 圃更  
 我ふまここもぬぬかこち 夢太  
 かかこち梅枝よぬぬち 蕪村  
 行ま ぬぬや遠くけけりこち 為重  
 かしこふらぬきや中時ち 諷竹  
 かしこふらぬきや中時ち 千代  
 朝にぬぬ月けりこち 希周  
 かしこふらぬきや中時ち 支考

牡丹

振世の日ぬふたぬ牡丹部 野明  
 扇梳よ青牡丹部 物牡丹 鞭石  
 ちりいせてぬぬぬぬぬぬぬぬ 葉文  
 とぬぬ牡丹よぬぬぬぬぬぬぬ 海棠  
 青天よむうつこぬぬ牡丹部 汶村  
 古遠よぬぬぬぬぬぬぬぬ牡丹部 嵐雪  
 嘆しゆしゆ中ぬぬぬぬ牡丹部 釣臺  
 ぬぬぬぬ日ぬぬぬぬぬぬ牡丹部 風國  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 蕪村  
 花のぬぬぬぬぬぬぬぬ牡丹部 青蘿  
 指ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 千代  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ牡丹部 大丘元  
 牡丹ちりぬぬぬぬぬぬぬぬ 榎妹  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 大丘元

芍薬

芍薬のぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 大丘元



墨栗

いんげんの葉をわらけにた 支考

われらふは思はるるけにた 木導

白けの葉うはたれにた 青蘿

けしきふらふらふらふらふら 二柳

海をふらふらせたりけにた 臥央

足元の端ふらふらふらふら 沾徳

影のふらふらふらふらふら 去来

杜あやふらふらふらふらふら 曉臺

いんげんや川原にわらふらふら 扇更

晴ふらふらふらふらふらふら 風睡

そらふらふらふらふらふらふら 蕪村

花ふらふらふらふらふらふら 千代

流るるふらふらふらふらふら 遊方

ふらふらふらふらふらふらふら 夫艸

麦秋

麦の穂よりふらふら花のまぬけ 野坡

麦秋いふのまぬけふらふらけり 風喬

麦刈より風のふらふらふら 瓢水

麦秋はたふらふらふらふらふら 也有

夏木立

ゆらゆらふらふらふらふらふら 紅雪

樹の葉いふふらふらふらふら 鬼貫

何の上はふらふらふらふらふら 嵐竹

いつこふらふらふらふらふら 蕪村

とけ入のふらふらふらふらふら 扇更

木下客

木の目の光ふらふらふらふら 白尾

菖

鳴止ふらふらふらふらふら 土芳

若菜

いふふらふらふらふらふら 呂丸

荒ふらふらふらふらふらふら 几童

ふらふらふらふらふらふらふら 曉臺



山よそへて小舟漕りやう邦 蕪村

鳥来しと親と又遠に存るぬ 几董

晩後よまもちのうらみか 千代

卯の毛ハ後おま 秋の坊

ふりて卯花まぬ波く赤ん 支考

卯のまはまきまきり 希因

卯まよかゝの能まの白か 几董

卯まハ日と持か 千代

卯まのこ白く 蕪村

卯たの車浪よら 青蘿

さへ橋やとてハ鳥のこ 一路

紫橋よひくもこも 方廣

のれうよま来送う 嵐竹

卯花

紫橋

橋實

さーさる旭のいろや 来山

相の志 尾毛もちいこりれ 乙由

相の本やまこくも 史磨

雷のぬくくりぬ相の志 史邦

さししせいかりも 也有

合歌本 わん咲や性写 二柳

箆 箆こりてせふら 風律

菰接 羽まり雨の鳥やふ 遊林

玉巻鳥 ぶさひてうらみ 麦水

蚊 寄鳩とて鳥をたぬ 二柳

蚊のきやきやのり 園更

うと風よ蚊のぬれぬ 蕪村

ひんぬの蚊帳も 来山

蚊帳



湖い夏ますししやの内 正木  
 乃並て故帳冷しるる好春  
 世ぬいこふのけり故帳の中 謙山  
 有ぬしと拾ひ人故帳のつり 其角  
 寝いどしる故帳の扱ぬぬ 直生  
 敷き 不ちくしそよの音き故帳 李東  
 クるのむせしてハ無く故帳 希因  
 鴉の孫つらぬ宿のこやうれ 儿董  
 クられのいつふえさるるやう 竹阿  
 故柱 故柱や春の花れあうり 曉臺  
 雨蛙 松ぬまうら柱のふ 芭蕉  
 暮 いくつとぬあふたぬらる暮 都雀  
 およとたすうこわらひれう 曲翠  
 新茶 言ちとぬさぬ流る新茶 支考

山門とあまに新茶の風つる 雪海  
 凡は名のつておこしう新茶 園女  
 初茶 花ものいろ形しと初茶 吾仲  
 花つらと茶つらも初茶 昨囊  
 初風 初風やこころと花よつら 知誰  
 鯉 清うぬるの花や一ね 宗瑞  
 めらるれぬふらんものよ 青稚  
 初鯉 鯉きうわらんを酔いしらん 芭蕉  
 茶ひともせんらぬや初茶 岩翁  
 花の系もあつたのえおつと 大江丸  
 卯むよとれと初茶や鯉 二柳

五月

五月 まつれうふちばの五月廿 渭川



かろふたか風の責る五月か 京 凡兆

五日すくも院のりちやみ井 挑隣

ちの五條と通る路の井 乙由

あやみ州茶のほしせう 京 木枝

山風のよかあつこの日か 希因

吉田鶴のよいほみ入 京 言水

うつらうつら 京 結せこ 京 藤井 萬子

勢写家 京 うつら 京 や 京 藤井 清流

葛蒲 京 ひ 京 う 京 ら 京 の 京 び 京 や 京 田 京 の 京 つ 京 の 京 桃隣

葛蒲妻 京 ち 京 の 京 愛 京 の 京 か 京 ね 京 の 京 乙由

葛蒲 京 ち 京 の 京 ち 京 の 京 ち 京 の 京 の 京 つ 京 の 京 ち 京 荷弓

我 京 の 京 ち 京 の 京 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 諸九

持 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 願更

競馬 疾く走る馬の音も入る 几蓮

竹解 竹柱をえぬかたより日くれ 曉塵

葛蒲 比み人よ舟をかくもあか 梅貞

洋 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 千代

洋 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 千代

洋 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 千代

藤花 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 希因

藤花 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 希因

川骨 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 几蓮

川骨 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 几蓮

川骨 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 几蓮

川骨 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 几蓮

川骨 ち 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 の 京 几蓮



莖菜 引不しふはれをーと夏草が 尚白

苦草 隈草や口草とらぬ草は花 乙由

花 昔の花松とほろしめ草が 馬印

花 ながらぬ草のくくやぬのふ 山店

花 へばりてかかしの草は草花 千代

葵 赤くも淋くくはさーと花が 文雅

花 雲つめてき工綴りけの葵が 大江丸

花 己うぬふと葵をせし後し草 此原

花 いらりさや花の時の為草 芭蕉

花 ありさや五葉ふ草と花 嵐雪

花 葉切ふ草と花とくく日草 東志

花 花切ふ草と花とくく草 希因

夏草 夏草と花と花と花と花と 旭芳

夏草 夏草と花と花と花と花と 旭芳

百合 ちりさや花と花と花と花と 千那

花 ちりさや花と花と花と花と 支考

花 花切ふ草と花と花と花と 素繪

花 花切ふ草と花と花と花と 斜嶺

花 花切ふ草と花と花と花と 朱迪

花 花切ふ草と花と花と花と 史邦

花 花切ふ草と花と花と花と 配力

花 花切ふ草と花と花と花と 鬼貫

花 花切ふ草と花と花と花と 此筋

花 花切ふ草と花と花と花と 杜宇

花 花切ふ草と花と花と花と 蕪村

花 花切ふ草と花と花と花と 蝶夢

花 花切ふ草と花と花と花と 大誓

花 花切ふ草と花と花と花と 重頼

花 花切ふ草と花と花と花と 重頼



たすくしお秋あつてつるま野が 可董  
おののしよま場まゝる野が 布舟  
筆か折る青ひくふるお 藤茂  
筆ま追ひぬれらる後うれ 探芝  
筆のちり愛の心をし 支考

若井 若井よ去のころや四十雀 風國  
根かおるまよう者一と外 権良  
若井小おふ一まのちんが 大江丸  
ま梅もころうの勢のおひひか 杜旭

枇杷 人のやまの枇杷うふ心鳥 楚常  
権元 どのしうお梅よふのころ山ぬが 芭蕉  
う守るのちまふ縁もる権が 乙由

後園寺 寺に我古葉よふまきまの葉 支考

と嘉 揚よまもつらくやうりふ那 乙由  
ならんねやふられぬのふのうら 春桐  
抽ふ 一枝はしらひささるる心押る 蓼太  
松福ふ まるるねのころをを松福 重厚

栗木 雪よ門つれりうらうのこれ 梅貞  
既花よあき音と一うれお 乙由

折ふ 折ふ  
田植 植つひーおと日月の門田ぬ 青蘿  
木の枝のほを押上て田植部 古道  
まのまのまよとてあつら田植部 支考

田の軒の田植やあつらひと半 梅子  
池のあつらひけて同うらうぬ 儿董  
あひくふ教つて合て田植部 乙由







梅雨 白路やまもも形 兵衛田の山 不玉

水鏡 ぬる風呂を舞うしつらひまが 都友

北枝 らひふらぬやぬぬぬぬぬぬ 北枝

伯之 ひろししと人狂まらぬぬぬぬ 伯之

團更 日くしふふおはいておはひぬ 團更

青蘿 かなしうよ未ニやういふひまが 青蘿

溜川 老常 常や六月うけて枝の中一 溜川

鬼貫 言言 常の言か入てたうまいも 鬼貫

一風 羽後考 たつたよの羽ひぬによ池の鴨 一風

團更 池浮葉 流かかろくやて魚のよ浮葉が 團更

嘯山 池の脊よたういふの浮葉が 嘯山

窓巴 あなよとくけ浮葉の流の声 窓巴

行山 つれ物やたれ物にふれ物が 行山

馬佛 かせねや粒のすむおの風ぬき

来山 里川や粒とつれつてぬきぬ

去来 くのあの大さくられくる出づ物が

史明 天不まこむきれひや粒の無

曉臺 咲えいそとやうし粒のかり

芭蕉 草れ葉は流るるもふ常が

野徑 のなるより下るいまをこきぬ

萬宇 植本をのよぬぬぬぬぬぬぬ

芦本 田の入りれまうしひり常が

青嶽 ちい波の常かうびてぬたぬ

大草 下あつちののぬぬひく常が

正香 常大や解つのにらきる常のつ

也有 月未の常かうぶる常のつ



蠟

花んてり節かぬこ燈いれ 青臺  
追ふ人いりうらなむるきか 大江丸  
月のおのれいふうらうら 青臺  
提灯いりうらうら 大江丸

さうのむいねんこ藤さるこ端半 支考  
端半竹おのこ角のちこり 蕪村  
三日月の指よこしうらうら 児童  
たのむいねんこ角のちこり 端半 曉臺

子

子いふうらうら 寺系 大江丸  
子いふうらうら 寺系 重厚

毛虫

提の本まうらねんもせぬ毛虫 蓼太  
酸さや毛虫のぼるるのう上 西吟

提

提すはねうらうら 百明  
提すはねうらうら 河駒

羽虫

提ぶうらうらのせんとおちうら 曉臺  
うらうらや富士の裾のわさうら 蕪村

夏虫

夏の日やいひうらねんよ 牧童  
うらうら月よいといてなれぬ 方廣

火取虫

いふせてもいふうらやうら 野風  
いふせてもいふうらやうら 野風

海蟻

いふせてもいふうらやうら 其角  
いふせてもいふうらやうら 其角

風射

いふせてもいふうらやうら 嵐雪  
いふせてもいふうらやうら 嵐雪

火車

宿まうし傍のねんいふ火車 十州  
いふせてもいふうらやうら 十州

麻子

麻子のうらとねんいふや山白 桃隣  
麻子のうらとねんいふや山白 桃隣



五明 羅城

六月

六月 六月廿三日 芭蕉

六月廿四日 鬼貫

六月廿五日 虚谷

六月廿六日 蓼太

水音 六月廿七日 芭蕉

六月廿八日 奚魚

氷室 六月廿九日 言水

七月一日 二柙

七月二日 大江丸

氷水 七月三日 二柙

一夜酒 七月四日 盤水

富吉指 七月五日 沾湖

七月六日 奚魚

七月七日 燕村

七月八日 曉臺

七月九日 立圃

七月十日 燕村

七月十一日 言水

七月十二日 燕村

七月十三日 蘭更

七月十四日 窓巴

七月十五日 芭蕉

七月十六日 史邦

七月十七日 重厚



青子

後まつれとあさん土用子 去来

湖の風とみどり土用子 羅城

生子

七子やとらつとらも相柳 大元

暑

班猫の仔とよおつとら子 昌茹

る京しとらとらとらねんか 枚風

猿皮のころあつとらする異か 時中

まあしとらとらとらとら異か 氷谷

白砂と雀とひくわつとら 遅望

異とらとらとらとらとらとら 素堂

村雨の本城ととらとらとら 其角

とらとらとらとらとらとらとら 二柳

涼とらとらとらとらとらとら 支考

涼風とらとらとらとらとらとら 許六

涼とらとらとらとらとらとら 淡々

涼

涼とらとらとらとらとらとら 蓼太

月涼とらとらとらとらとらとら 也右

涼とらとらとらとらとらとらとら 千代

独涼

川風やとらとらとらとらとら 芭蕉

ぬけとらとらとらとらとらとら 文妙

新あつとら川とらとらとらとら 蘭子

お筋とらとらとらとらとらとら 去来

ま〜とらとらとらとらとらとら 宗次

あ〜とらとらとらとらとらとら 一珍

とらとらとらとらとらとらとら 園女

新あつとらとらとらとらとらとら 其角

〜とらとらとらとらとらとらとら 李下

とらとらとらとらとらとらとらとら 嵐禪

夕涼とらとらとらとらとらとら 乙田



白雨

とじとや敷をあていさむと 園女  
第本よはうけつをまて涼哉 山店  
夕まのこはけ枝まつらひのうへ 昌房  
夕まのこはけまて行ふ娘の 蛙足  
白雨のぬやこ谷のひのま下流 蘭舟  
夕まや枝まふつくぬのやま 鞆風  
白雨よまてけりぬのやねの風 利半  
夕まやひりしことおむもはらう 李田  
夕まや麻の匂のほうとする 徐寓  
夕まを道り浦の鳥の那 馬印  
呵らうふまてけり流あうね 白仙  
ひりりつ木の根を下流水引 雲風  
木の中ふとけいれはま流あうね 宗比  
白雨のぬやにらうん若流あ 蓼太

清水

あまのいよとまうはるが那 千代  
流うして音ぬくありし流那 蕪村  
心寺や掬の下ねる世は流あ 几董  
物巻れ流あまうた流那 方廣  
ひりりつ木の根を流那 芭蕉  
あまのいよとまうはるが那 也有  
あまのいよとまうはるが那 許六  
あまのいよとまうはるが那 鬼貫  
あまのいよとまうはるが那 八橋  
あまのいよとまうはるが那 路徑  
あまのいよとまうはるが那 范宇  
あまのいよとまうはるが那 史邦  
あまのいよとまうはるが那 去来  
あまのいよとまうはるが那 馬印

泉

古水

古水



夏月

涼のそよ草もむらさきの月 諸九

芒種してきつひふせきや夏の月 作書

あよしのまはなほまゝして夏の月 團更

夏の月をまは上のめいし 大江丸

言ふつやふ地府の風うきり 良品

懸る扇くさきさうりく 杉風

おろりたのまゝまゝさるる扇 儿董

法衣うろたハ紙折る扇くれ 大紅

くたねとさきの音やねの門 太祇

日の影と押えておききき 團更

まら秋とさくぬそつらんさうり 涼菴

竹島常もさせは風う吹 杜若

行まうききとふや旅衣 諸九

行松 常任の糸巾とふや行松 嵐堂

番の氣成一むのくろ行松 一礼

抱衣や夏よ凍むも林は陰 也有

抱衣のくろ一ね二ねうね 百尾

竹野 うしろのなやまはなはな 希因

簾 細粒まの風さうらうひら 蕪村

百景 高きふくつして断 光と秋

水粉 水の粉れさうふまそめ州め屋

ふ太 羽札のくろふのりやふ太 其角

風扇 風扇も我も浮世の中おる 進歩

蓮 びく銀や茶らふまきさうら 玄梅

枝好 くろいものくろいものぬき 辛嵐

蓮二本とこれい海やまはれ 白函

岸あ くろい流やまきこのまき 晴臺

ゆ くろいあもあもあ 大魯



花はしれつ不そ月さまの 蘭更

蒲種 花はしれつ不そ月さまの 可團

夕夜 夕夜はしれつ不そ月さまの 凡兆

乙由 夕夜はしれつ不そ月さまの 乙由

芭蕉 夕夜はしれつ不そ月さまの 芭蕉

何中 夕夜はしれつ不そ月さまの 何中

二柳 夕夜はしれつ不そ月さまの 二柳

大江丸 夕夜はしれつ不そ月さまの 大江丸

馬印 夕夜はしれつ不そ月さまの 馬印

嵐竹 夕夜はしれつ不そ月さまの 嵐竹

惟然 夕夜はしれつ不そ月さまの 惟然

騷道 夕夜はしれつ不そ月さまの 騷道

等般 夕夜はしれつ不そ月さまの 等般

石竹 夕夜はしれつ不そ月さまの 石竹

紫雲 夕夜はしれつ不そ月さまの 紫雲

綿花 丹波路や海の家のももすもも 蘭更

麻 これもまももれもくらんももも 風皆

浪花 特麻やうらうらももももももも 浪花

吞水 志このももももももももももも 吞水

芭蕉 花とまもも一夏ももももももも 芭蕉

曉臺 花とまももわつねももももももも 曉臺

蕪村 花とまもももももももももももも 蕪村

涼菟 田村菊ふ世もももももももももも 涼菟

芭蕉 丸の皮むつこももももももももも 芭蕉

希因 ちもももももももももももももも 希因

尚白 つやしとまもももももももももも 尚白

方居 一掃の勢ももももももももももも 方居

其角 隣うつはももももももももももも 其角

鬼貫 了原の其ももももももももももも 鬼貫



霞の青けしうちの風のやうな合 紅石  
 並松や二とらうのぼのぼの 孤山  
 山風の吹くやうにぼのぼの 空穿  
 相の本のさうばうやぼのぼの 萩人  
 とのの葉のさうばうにぼのぼの 呂物  
 松風の吹くやうにぼのぼの 千代  
 川うやぼのぼのさうばうに 杜若  
 投られてもうらな合の葉の 此筋  
 とのぼの葉のぼのぼの 従昔  
 のぼの葉のぼのぼの 二柳  
 秋道 秋さう 首代江の橋のさう 汶村  
 秋さうのぼのぼの 除風

秋

七月

三秋

ひろしと木葉動て秋さう 鬼貫  
 秋さうのぼのぼの 浪化  
 秋さうのぼのぼの 北枝  
 秋さうのぼのぼの 角上  
 秋さうのぼのぼの 尚白  
 秋さうのぼのぼの 也有  
 秋さうのぼのぼの 二柳  
 秋さうのぼのぼの 児童  
 秋さうのぼのぼの 大江丸  
 秋さうのぼのぼの 青羅  
 秋さうのぼのぼの 蓼太  
 秋さうのぼのぼの 路健



秋夜降きよき雨 毛純

秋夜親よく遊ば角力え 采登

秋夜わらふもた早のつら 二柳

秋夜なまていひた坂の道 松丸

七夕やすすきよも川の流 銭花

七夕や戸障まもる扱きこ 前口

七夕やかみ川くくる牛車 嵐雪

うねりつ青七夕や市野堂 速雅

聖途 せうよんていろはあやうて 燕下

酒のうとねて酒の心早途 去来

早合 延喜のよれかこみ神となく 青蘿

早合 早合のそく陸ちくは早もろ 凉菟

早合も心音の尾のころれね 几董

清への教ゆひさけて早もろ 園女

枕洗 七夕や枕の早もあひあけ 吉女

鵜橋 都やも橋のほしハねて 大江宛

天の川 横とよよその函ちやこれ川 此筋

大切をおかぬかろつて川 其角

天の川くつる本まのそふた 園更

月うけもけりあせ天の川 珈凉

初月 けくろくとももやい 卓袋

盆月 盆の月あこも門あきけり 野坡

初月 初月似一舟渡のころや 青雅

暮来 月のもや橋の下れともあり 如七

城のまらしくりて墓の丸か 園更

魂来 とうろくのまやこも 乙由

侍への名はけしそ 卓袋

魂来もくた佛もあうりそ 泥足



野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂



相撲

幸崎の月の形とぬいを火部ツキ 紫香  
 むしとけ様父殿と角力より 芭蕉  
 面掛けよしのうらたる角力部 春幾  
 下帯いんせむきも角力 許六  
 角力りの後つとくたの声 木導  
 山陰のののしりしりしり 盛弘  
 せう角力夏の雲角力あじし 六合  
 系掛の角力よあひぬうの山 大江丸  
 荷もとぬ尻をまして秋あじし 指華  
 指華とまてある秋のじつ部 支考  
 ぞよれ糸よおくや秋早の上袂 北枝  
 朝の宵いっついである秋早の 千代  
 秋もやうと宿居うらるる方外 乙由  
 秋あじしぬくも青一栗のいう 芭蕉

和風

猿蓑

秋風

鶴の尾ぶつれりりおほじ 荆口  
 身よ入ると入振うし秋の風 芭蕉  
 大根の二葉よとらや秋の風 素覽  
 浪拂の個なこころや秋の風 千那  
 川をやらをる心おく秋の風 從言  
 生ぬをち坂を押しける秋の風 志井  
 秋風やこれ眼のまらるる海鏡堂 風律  
 黍の根やかとつら秋の風 凡兆  
 さひーとやうたの坂やの秋の風 汶村  
 ころくしと西風とる秋の風 陽和  
 時よに直出とる秋のこせ 蝶夢  
 はる秋のまのばさよひ秋の風 大江丸  
 秋風や丁奥うけらる後庭 蕪村  
 一とら秋およ秋のこせ 青羅



秋雨

秋風や暮ふさしくもはる 曉臺

秋の鳥音まてききし 清原

秋の白鷺の尾のさくさくたり 孤翁

茶島の一宿ひや秋のつら 李由

秋つもや飽のふふ笑しく 吹峰

白鳥のあくくあくとあふさ 儿圭

白鳥のあふさあふさあふさ 蕪村

大粒のあふさあふさあふさ 青羅

我のあふさあふさあふさ 大江丸

抗柱のあふさあふさあふさ 北枝

ききあふさあふさあふさ 卓夫

秋のあふさあふさあふさ 毛純

秋川やあふさあふさあふさ 開更

あふさあふさあふさあふさ 嵐青

稲妻

稲つよのこれてあふさあふさ 大草

あふさあふさあふさあふさ 洞梨

あふさあふさあふさあふさ 曹所

あふさあふさあふさあふさ 一露

稲つよのあふさあふさあふさ 全羅

稲つよのあふさあふさあふさ 史邦

稲つよのあふさあふさあふさ 千代

秋のあふさあふさあふさ 吾仲

嵐のあふさあふさあふさ 挑妹

あふさあふさあふさあふさ 芭蕉

あふさあふさあふさあふさ 涼菴

あふさあふさあふさあふさ 馬耳

あふさあふさあふさあふさ 安求

あふさあふさあふさあふさ 野重



あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因  
あつしきくねんく女を 希因

秋海棠

あつしきくねんく女を 希因

栞梗

あつしきくねんく女を 希因

以栞梗

あつしきくねんく女を 希因

まき葉

あつしきくねんく女を 希因

蘭

あつしきくねんく女を 希因

薄

あつしきくねんく女を 希因

薄

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因

あつしきくねんく女を 希因



野菊

常不とたててまゝのむ 風國

ゆく及の世をれとての流邦 柳妻

たちこころ人どまふ秋雨邦 杜宇

萩

そのれたや二つ入瓶小萩のむ 専明

水あつちや秋の歌く萩の下 園更

白萩やいとしひのちと哀初 青羅

ふたふたふつひてりは萩の 鬼貫

萩

萩垣やほほ秋まきとまのれを 黄唇

風の音萩まきとまのれを 大江丸

萩を海へかゝれて萩のこゑ 斗入

萩

萩の日はわよまふらぬ萩のこゑ 蓼太

あれは萩まきとまのれを 芭蕉

いせは風のこゑとてし萩のむ 休計

萩まきとまのれを 鬼貫

月夜まきとまのれを 希因

まきとまのれを 二柳

夕雲とまのれを 暁堂

刈りこもとの萩まきとまのれを 几董

一のの萩まきとまのれを 蘭更

花萩

ひびくとまのれを 盛弘

むらさきの萩まきとまのれを 萬子

尾萩

秋の日は萩の村尾まきとまのれを 青羅

草

夕桐の尾をふくまのれを 祐昌

萩の本より萩まきとまのれを 乙由

口切の萩まきとまのれを 素覽

義仲や舟の萩まきとまのれを 泊船

編みくらの車も萩まきとまのれを 水菴

山もや人の萩まきとまのれを 仙化



稻葉 忍び代らん心もぬらんか 一矢

稲花 異ともちのさしけりしおのこ 満力

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 露田

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 曲翠

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 露川

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 松鶴

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 支考

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 之道

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 史邦

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 支考

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 呂曉

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 團更

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 井雨

早稲 早稲のまや舟中のるのこ入 灯七

芋 齒の後のをよひりし西風 梨旭

芋 露川

芋 山川

芋 大江丸

一葉 鬼貫

一葉 有収

一葉 蓼太

一葉 芭蕉

一葉 土芳

一葉 壺中

一葉 大江丸

一葉 知足

一葉 乙由

一葉 曉臺



虫

三日月の角よそこわつ木槿并 希因  
 灯のまよふあぢは枝の山 蕪葉  
 春禪のうしろもあぢは 壺中  
 虫の音やあふけて流るる中 園女  
 うらつくまはあぢは秋の虫 文鳥  
 月消て虫いぢらしのまよふ 蘭更  
 虫のまよふあぢはあぢは 青蘿  
 虫のまよふあぢはあぢは 丈竹  
 蒼声のまよふあぢはあぢは 乙由  
 赤鶴あぢはあぢはあぢは 雲鈴  
 蒼いあぢはあぢはあぢは 感宇  
 稚府あぢはあぢはあぢは 荻人  
 めれあぢはあぢはあぢは 除風

春

今うらな命あぢはあぢは 夢太  
 居風あぢはあぢはあぢは 希因  
 寺は縁て縁のまよふあぢは 二柳  
 軍とれく再うまはあぢは 青羅  
 後あぢはあぢはあぢは 木染  
 後あぢはあぢはあぢは 千代  
 糸ろるあぢはあぢはあぢは 孤屋  
 陣のあぢはあぢはあぢは 羅城  
 後あぢはあぢはあぢは 惟然  
 めあぢはあぢはあぢは 諸九  
 いあぢはあぢはあぢは 蘭更  
 松屋あぢはあぢはあぢは 車来  
 後あぢはあぢはあぢは 桃既  
 後あぢはあぢはあぢは 雪芝

晴

雲

松

後



鈴とや雨と千種のりびさし 二樹

鈴舌のつらさし 曉臺

後綴 千明

四睦

芭蕉

仙水

野徑

其由

野徑

波舟

曉臺

青羅

支考

後吟 酒のよさうめとんがの良地 古帆

桐 桐や鳥もとり 墓の松 蝶夢

桐や捨ててきてもくろく月夜 こと

秋後 秋の影のまじやのころ 示蜂

秋の聲つゝ秋よりつり 青羅

声ききし 秋の聲 曉臺

八月

八朔 八朔は碓の利さるぬますか 許六

八朔の袖ける 祐昌

田面程 春持も出 田舎の田つ 白雄

秋後 秋のひろんの松井 木導



敬亭 山花や氣をうつけて双生舎 乙由

双生舎花は并にさうりたり 萍花

弱徒 弱むらまは板よりハリ 正香

系差にこれ弱徒のりなり 浪化

いく弱のまひやさおん時<sup>キ</sup>の海 太極

待宵 待宵の月やむらむら 正秀

待宵やおまをさくく 希因

待宵やおまの今ハあそもの 原松

待宵や後と時の 二柳

暮月 名月やるる下る 如元

名月やささるふさきね 潮春

名月や里の白ひのまき 木枝

名月や山つらつら 言角

名月やいよと 言水

名月や心とおしと 去来

名月や照るももる 菅本

名月や松の位りあり 南谷

名月や揺れおしふく 乙由

名月や義のかくし 浦盛

名月や花をぬ人も 園女

名月の松いつらと 怨風

名月や人は押あし 千代

名月やりてもく 千代

今宵 仕合ふ眼の招くれは 嵐雪

まをさす松と 青蘿

我門かふと出ぬら 土芳

月のまよふ心 守武

月夜 名月やとや 守武



月ととも松とある方ね庭のり 酒紅

お星のる秋のまをれ月ととも 几董

月 燈もふとさる影の月ととも 洞梨

寺は藤ては月ととも月ととも 芭蕉

酒堂よよみ漕ととも月ととも 正秀

新月 秋月やともふととも 合羅

兩月 名月のあねとともは味もせん 千梅

十夜 家々小月の中ととも青 来山

いさよひの月引ととも根が 宇鹿

十いおち言ふととも月の雪 几董

三日 十日月やとも楳の種のおつり 十丈

乾ちるや草の紫ととも月 杉風

ととも月やともふととも月 桃隠

月 蜀黍の葉もりのじととも 曉臺

非字のねあしととも月おね 仙行

振の本のそんととも月おね 鬼貫

そのや年つらととも秋の月 元昌

よりのつら松もあつらう 春水

香焚て我ととも月おね 海棠

月おねあつらととも月おね 近之

籠炊と月のおつりの葉をた 青羅

風とれおとら表と月のお 曉臺

さつしとともと月のおとれ 土芳

村おねとともと月のおとれ 大江丸

まよとともと月のおとれ 尚白

秋の夜と月おねととも月のお 斗八

おとらとともと月のおとれ 露川



無一ふものもこれ月夜部 松兄

拙の癖よりくちや燈の月 去来

月代や雀ごころつく寂の中 田原

星原 世にきく人よりひさう星月夜 雨聽

初夜 初夜やうき種のかくして 夢太

秋暮 死もせぬ秋暮のそよ秋のれ 芭蕉

深きい鴉う鳴ても秋のくれ 乙由

大いなる庭ひくら秋のくれ 角上

ものつくぬ人そらやう秋のれ 乙由

秋ぬまえせそ秋の秋のくれ 雲鼓

秋のくれ種のかくも廿日比 千梅

秋のくれ 酒うらまにん秋のれ 野坡

日あふらやう秋のくれ 正秀

持さく巫女は惚らう秋のれ 言水

夕ぐれは種とみや寺のくれ 風國

竹まきあそび火くら秋のくれ 儿蓮

柱まはふもよひ秋のくれ 青蘿

秋夕 居風呂小味つく秋のゆかす 水魚

秋夕 庭つふみやや暖うら秋のくれ 正秀

ひらりさ秋のくれのくれのくれ 支考

秋夕 秋夕は種てまひら秋のくれ 枳色

秋夕 旅人と持本は麻さる秋のくれ 大村

秋夕 おそいゆあまよりつもの秋のくれ 青蘿

秋夕 けしきの一ツきりたる秋のくれ 也有

秋夕 本花まよる秋のくれの秋のくれ 風麦

秋夕 秋夕はくらの秋のくれのくれ 鬼貫

秋夕 秋夕はや烟まにむら秋のくれ 由仙

秋夕 夕ぐれのみまも市にきく秋のくれ 大江丸



枕を みくもて 枕をた枝の柱うれ 蘭更

街を やまを 街のむと栞う柳 風國

秋枝 やまを 秋の枝やまをいれとやま 野童

永枝 まの 永のまぬおも水一様ひて 北枝

暴風 まの 暴風のまのりてのたか 塵生

秋風 まの 秋風のまのりてのたか 秋航

希因 まの 希因のまのりてのたか 希因

也有 まの 也有のまのりてのたか 也有

青蘿 まの 青蘿のまのりてのたか 青蘿

燕村 まの 燕村のまのりてのたか 燕村

山兒 まの 山兒のまのりてのたか 山兒

色蕉 まの 色蕉のまのりてのたか 色蕉

旭若 まの 旭若のまのりてのたか 旭若

夢太 まの 夢太のまのりてのたか 夢太

乙由 まの 乙由のまのりてのたか 乙由

蒲道 まの 蒲道のまのりてのたか 蒲道

青蘿 まの 青蘿のまのりてのたか 青蘿

士芳 まの 士芳のまのりてのたか 士芳

知白 まの 知白のまのりてのたか 知白

可董 まの 可董のまのりてのたか 可董

牧童 まの 牧童のまのりてのたか 牧童

曉臺 まの 曉臺のまのりてのたか 曉臺

枕を まの 枕をのまのりてのたか 枕を

街を まの 街をのまのりてのたか 街を

秋枝 まの 秋枝のまのりてのたか 秋枝

永枝 まの 永枝のまのりてのたか 永枝

暴風 まの 暴風のまのりてのたか 暴風

秋風 まの 秋風のまのりてのたか 秋風

希因 まの 希因のまのりてのたか 希因

也有 まの 也有のまのりてのたか 也有

青蘿 まの 青蘿のまのりてのたか 青蘿

燕村 まの 燕村のまのりてのたか 燕村

山兒 まの 山兒のまのりてのたか 山兒

色蕉 まの 色蕉のまのりてのたか 色蕉

旭若 まの 旭若のまのりてのたか 旭若

夢太 まの 夢太のまのりてのたか 夢太



種瓢 二つおく人のやうなふくた<sup>手</sup>生佛  
白りしをい昔はなわくへ 凡兆

推察

冬凡 かし凡中をうも紫うし推られし<sup>手</sup>圓木  
鳥凡 市人のきうもあられ天 凡 柑雪

新凡 初丁中ねらうてたぐいそ<sup>手</sup>の千代  
新丁中通うさして声こりり、

尾 新丁中帆柱おこんわり舟 渾堂  
尾 尾はてま<sup>手</sup>所<sup>手</sup>れそ<sup>手</sup>た<sup>手</sup> 遙望

幡一重志中<sup>手</sup>て<sup>手</sup>し<sup>手</sup>る<sup>手</sup>多 乙由  
そ<sup>手</sup>冷<sup>手</sup>る<sup>手</sup>板<sup>手</sup>中<sup>手</sup>よ<sup>手</sup>ひ<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>る<sup>手</sup>多 丈州  
明<sup>手</sup>る<sup>手</sup>と<sup>手</sup>さ<sup>手</sup>えて<sup>手</sup>さ<sup>手</sup>る<sup>手</sup>力<sup>手</sup>の<sup>手</sup>丁 青蘿  
く<sup>手</sup>つ<sup>手</sup>し<sup>手</sup>て<sup>手</sup>丁<sup>手</sup>も<sup>手</sup>る<sup>手</sup>板<sup>手</sup>と<sup>手</sup>あ<sup>手</sup>り<sup>手</sup>、

西<sup>手</sup>の<sup>手</sup>カ<sup>手</sup>の<sup>手</sup>人<sup>手</sup>と<sup>手</sup>し<sup>手</sup>る<sup>手</sup>の<sup>手</sup>花 曉臺  
そ<sup>手</sup>れ<sup>手</sup>ま<sup>手</sup>じ<sup>手</sup>り<sup>手</sup>な<sup>手</sup>つ<sup>手</sup>て<sup>手</sup>さ<sup>手</sup>る<sup>手</sup>園<sup>手</sup>が 蘭更  
フ<sup>手</sup>り<sup>手</sup>て<sup>手</sup>菊<sup>手</sup>の<sup>手</sup>一<sup>手</sup>枝<sup>手</sup>は<sup>手</sup>な<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>う 大江丸  
う<sup>手</sup>け<sup>手</sup>浪<sup>手</sup>よ<sup>手</sup>お<sup>手</sup>り<sup>手</sup>れて<sup>手</sup>た<sup>手</sup>り<sup>手</sup>し<sup>手</sup>の<sup>手</sup>後 曉臺  
鴨<sup>手</sup>こ<sup>手</sup>つ<sup>手</sup>て<sup>手</sup>日<sup>手</sup>ハ<sup>手</sup>尾<sup>手</sup>書<sup>手</sup>は<sup>手</sup>な<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>う 尚白  
鴨<sup>手</sup>こ<sup>手</sup>つ<sup>手</sup>て<sup>手</sup>一<sup>手</sup>こ<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>泳<sup>手</sup>た<sup>手</sup>る<sup>手</sup>う<sup>手</sup>板 冰卷  
鴨<sup>手</sup>こ<sup>手</sup>つ<sup>手</sup>て<sup>手</sup>月<sup>手</sup>空<sup>手</sup>め<sup>手</sup>ね<sup>手</sup>た<sup>手</sup>二<sup>手</sup>月<sup>手</sup>卦 團更  
鴨<sup>手</sup>こ<sup>手</sup>つ<sup>手</sup>て<sup>手</sup>鳥<sup>手</sup>鳴<sup>手</sup>か<sup>手</sup>い<sup>手</sup>り<sup>手</sup>れ<sup>手</sup>る<sup>手</sup>あ<sup>手</sup>れ<sup>手</sup> 二柳

海<sup>手</sup>書 月<sup>手</sup>の<sup>手</sup>あ<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>き<sup>手</sup>や<sup>手</sup>ま<sup>手</sup>じ<sup>手</sup>の<sup>手</sup>後<sup>手</sup>の<sup>手</sup>書 芭蕉  
丁<sup>手</sup>の<sup>手</sup>う<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>き<sup>手</sup>ひ<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>り<sup>手</sup>る<sup>手</sup>も 也古有  
系<sup>手</sup>を<sup>手</sup>と<sup>手</sup>こ<sup>手</sup>い<sup>手</sup>あ<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>る<sup>手</sup>書<sup>手</sup>海<sup>手</sup>の<sup>手</sup>書 曉臺

小<sup>手</sup>書<sup>手</sup>後 小<sup>手</sup>書<sup>手</sup>本<sup>手</sup>の<sup>手</sup>青<sup>手</sup>娘<sup>手</sup>と<sup>手</sup>よ<sup>手</sup>板<sup>手</sup>底 蕪村  
も<sup>手</sup>こ<sup>手</sup>も いら<sup>手</sup>る<sup>手</sup>書<sup>手</sup>中<sup>手</sup>養<sup>手</sup>ふ<sup>手</sup>か<sup>手</sup>い<sup>手</sup>あ<sup>手</sup>れ<sup>手</sup>る<sup>手</sup>也<sup>手</sup> 白芝  
歌<sup>手</sup>本<sup>手</sup>を<sup>手</sup>出<sup>手</sup>て<sup>手</sup>い<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>る<sup>手</sup>書<sup>手</sup>本<sup>手</sup>を<sup>手</sup>い<sup>手</sup>ら<sup>手</sup>る<sup>手</sup>也<sup>手</sup> 窓巴



木つたの入とりりり救のね 文章

山雀 こつこつや櫃の老木は燕村 燕村

百舌鳥 草茎は鶴の心はくらくらり 野坡

栗採や日に入とくく鶴のくく 曾米

鳩鳴て風眼とまろこれ 蘭更

鳩鳴やクワ日の影さ枝の末 也有

鶺鴒 篠竹の鶺鴒もく撞むやあけ後 沾葉

椋鳥 クラれをておす椋の羽音か 一保

鶺鴒 さされいや空土くぬる畔の上 磨盤

鶺鴒 てるささるてたてられて鳴うら 卧高

ささりくさもややうらうら 飄竹

夏のつひ小鶺鴒のきけりしけ 希因

風つり小鶺鴒の源まのやせ鶺 曉臺

うられても秋風忘るぬ鶺鴒 千代

鴉 ころくしと去風くくく 鶺鴒

鳩鳴 やさごとく悪いとさうら 托巾

山伏の鳩ふくさく入ふらり 嘯山

鶺鴒 つとみまーんの下より鳴じら 團更

鳴きまぬまけハ冷まぬじら 一口

鞋の末てら上まぐむむ 風孤

鞋をんてらハ流のころ川 圓木

めとまむいとつとまむや無声 蕪葉

おのりし小尻おのれ枝の麻 惟然

あつれとやゆのころハ麻の夢 萬乎

親さかたなまうとつとま麻の足 杜若

麻のころや角のころハ麻のつと 白楸

つとつてお麻のころハ麻のつと 轍土

あつれとやあつれと麻のつと 希因



陽川  
 木導  
 蘭更  
 大江丸  
 蕪村  
 千代  
 雲口  
 野坡  
 正秀  
 探芝  
 大江丸  
 如泉  
 蕪村

書

也育  
 馬印  
 陽和  
 大魯  
 希因  
 湖天  
 秋色  
 蕪村  
 魯江  
 蓼太  
 大虚  
 蕪村  
 乙由  
 孤屋

月

引板

流水

落水

稻



箱をける扱も扱一山家井 馬印

田刈 箱刈や付まきう遊り致され 榮枝

そ刈のふこふまうらうて田刈部 也有

箱植 箱植いろ子能ううのふゆじ 乙由

箱植扱ひ百あうらうてふゆじ 蕪村

黍 黍のこも裁きて酒の釣茶部 支考

粟 粟畑のねくまきうらうて入部 空芽

九月

九月 あうらうて九月日わち教のそり 水魚

手印 うらの菊中箱の飯のそり 戈磨

九月ふきうん松と白松 待彼

つらぬいれうもやと入の菊 宇月

出代 出代やひまもとまふまきうらうて 金毛

后月

らうらうての節白きうて月部 八乘

何とてん鼓うつし后の月 其角

たらうらうてものハ葉まよえ后の月 千代

葉烟まよえ風まよえ後月 佐角

乾二扱うらうて後月 杉風

才とてん月のほらうて後月 希因

すさやうて飯をのつて和店の方 也有

ふ葉まのふあうらうて后の方 蕪村

晴ふらうてのまおやのうらうてつき 青蘿

月夜 晴ふらうて月のまおやとつき 正秀

丹市 丹市うらうておあ拾ん十と扱 浮風

八舎の月とてんや外の市 雨聴

丹系 つのりのいさ月とてん丹系 蕪村

丹道官 丹道官の西のうらうて百年 立吟



菊

若本枝の末さしやれはむ 支考

白さの愛さしやれむ

とちの愛さしやれむ 乙由

塗ののまうつらや菊のむ 木導

水汲のまよれつあのみさく 夫草

りたのまかかづく菊のむ 嵐蘭

まのまかかづく菊のむ 越人

痛まのまかかづく菊のむ 千梅

冷河のねみあづり一き菊 佃房

相づのつちま元とまづのむ 千代

あさき一た枝のまかかづく菊のむ 蕪村

ふんや枝のまかかづく菊のむ 圃更

ふんや枝のまかかづく菊のむ 大江丸

ふんや枝のまかかづく菊のむ 雨汀

菊

若本枝の末さしやれはむ 支考

月夜まよれつあのみさく 青蘿

音の雨ねとらなりて菊のむ 龜世

たけねやまかかづく菊のむ 座羅

ふんや枝のまかかづく菊のむ 蕪村

ねけやまかかづく菊のむ 吾仲

ねけやまかかづく菊のむ 惟然

ねけやまかかづく菊のむ 甲乙

ねけやまかかづく菊のむ 大江丸

ねけやまかかづく菊のむ 支考

ねけやまかかづく菊のむ 李由

ねけやまかかづく菊のむ 蕪村

ねけやまかかづく菊のむ 兼太

ねけやまかかづく菊のむ 支考

ねけやまかかづく菊のむ 支考

ねけやまかかづく菊のむ 圃更



高葉 木より斧のこきりしきり 作古

松 松 松のこきりしきり 松 松昌

木実 松のこきりしきり 松 李里

板美 木も松のこきりしきり 松 鬼貫

梨 木も松のこきりしきり 松 大江丸

栗 古きや栗のこきりしきり 松 鬼貫

射江 栗のこきりしきり 松 射江

青羅 栗のこきりしきり 松 青羅

牡羊 栗のこきりしきり 松 牡羊

九兆 栗のこきりしきり 松 九兆

大紙 栗のこきりしきり 松 大紙

利牛 栗のこきりしきり 松 利牛

濃材 栗のこきりしきり 松 濃材

熟材 栗のこきりしきり 松 熟材

へつへつと熟材 松 白歌

さいさい 松 支考

推 木のこきりしきり 松 沾徳

推 木のこきりしきり 松 蕪村

推 木のこきりしきり 松 二柳

未松 木のこきりしきり 松 北枝

未松 木のこきりしきり 松 曉臺

今葉 木のこきりしきり 松 几董

今葉 木のこきりしきり 松 大江丸

水上 木のこきりしきり 松 古帆

綿 木のこきりしきり 松 富定

柚 木のこきりしきり 松 涼菟

落船 木のこきりしきり 松 重頼

落船 木のこきりしきり 松 嵐雪



浪船一隊八つたの音 京 春坂

輜引 引上てふがとていひしりか 白扇

鳥巢 うつとまゝ魚の住やあやふ 大押

稲丸 稲のすく人きすねり下り月

七里 秋うつうつとねたねたね 支考

千川 雁はまゝとれしとて雁

柳丈 雁はまゝとれしとて雁

毛氈 ね草のまゝのひくれね

青蘿 灯火は風うつらつたね

几董 仁ねちや門のあつたを

大魯 よそのねはねあつたを

千代 青そつてあつたを

雪芝 雲しとに映ふのうらと

露時雨 かくさせて木まのうらと

露時雨 かくさせて木まのうらと

希因 雲のまのうらと

露川 仁入目も出てはきや

燕村 戸を叩く狸と秋を情

昌碧 秋られてとひし

芭蕉 秋や新しもせつた

乙由 秋や別深ぬちも

文章 秋の仁入日よ

牡羊 秋よまゝの程も

越人 秋やあゝ人と

二柳 秋やあゝと

大江丸 秋やあゝと



冬

十月

初陽 ひとやうの清のよひに初陽 支考  
 秋葉のやぬのまつや初陽 許六  
 波のよまの枝のう知くれ 菊口  
 はくらの枝のゆひちや初陽 野坡  
 其葉のぬれまふ人かーれ 乙由  
 初くれ世のよまのうのわ 西谷  
 を返してゆまうひたり初陽 諷竹  
 こけちのぬれまふ初陽 青蘿  
 傘控て葉のぬれまふ初陽 淡々  
 ゆくまのぬれまふ初陽 園更  
 ぼくまのぬれまふ初陽 千代  
 初陽 ぼくまのぬれまふ初陽 白空

いそぐも津のぬれまふ初陽 去来  
 汐のよまの枝のう知くれ 李由  
 波のよまの枝のう知くれ 木因  
 早まのぬれまふ初陽 浪化  
 ぼくまのぬれまふ初陽 野坡  
 木葉のぬれまふ初陽 乙由  
 沈のよまの枝のう知くれ 北枝  
 竹のよまの枝のう知くれ 野坡  
 食のよまの枝のう知くれ 去来  
 朴の木の伐はくまの初陽 宇治  
 松の木の伐はくまの初陽 三岐  
 炭のよまの枝のう知くれ 知外  
 篠のよまの枝のう知くれ 氷因  
 竹のよまの枝のう知くれ 青蘿



竹葉吹火よ丹音と持しうれ 歳人

是悪もねくろく時ゆい山流部 空芳

ひりしと池のきき夏村ぬる 壺中

管や時もよ交るやあめのと 朱拙

押あきて箱いものうし一箱哉 野坡

十月 十月のひいねふとたつよふね 縣草

十月の人まよとまの月おぬ 五明

小宵 鴨のねよあたり小ら月 甫尺

秋冬 ぬきや白湯よ集あは後家屋 千梅

おきの機よ入るやたりくす 蓼太

小春 とう栗のい木よ刈るこ小まお 鬼貫

おのぼりて出れふまはれ冬を哉 李由

麩のねのまお子てある小まお 涼節

秋送 戸をさしてなまう一秋送 ころ

鬼貫

木枝

玄指 腕の形あぬよせいれい玄指哉 除風

徐寅

太袷

連名 さいごころやまきうねのら孫次 白雄

芭蕉 さいごまお佛と唱んけねうね 二柳

大江丸

大魯

町屋 ちまね取らうつらうり所余海 芭蕉

史邦

奚魚

上糸や月お附あし所余海 儿董

乙由

十夜 小坊まの伯入あやう十夜哉 乙由



下系のくそこのとこも十枚非 許六  
 池火は鴨居のひくろ十枚非 岱水  
 白のちの懐へひく十枚非 千梅  
 居風呂とふるまはれる十枚非 史邦  
 蓮池のおとろうしひの十枚非 涼備  
 野川のくそおろ十枚非 也有  
 あさここの葉もたつくと十枚非 蕪村  
 おの葉もたつくとせろくは五枚 芭蕉  
 玉を百人あそぶとくろし 山庄  
 水くろ紙内美のまろは二枚非 嵐竹  
 水くろ紙ヤウたたは松の杖 史邦  
 ひくろりちあまあつとろ 戒講 去来  
 せしめてのちあけおや戒かろ 杜若  
 ちくろくろ梅もろくろ 戒講 曉臺

座敷

妻怪

おお 幼おや葉冷ゆる後の強 芭蕉  
 おーしやうてのちくろ酒の溜 史邦  
 おーしや衾よこもる後かろ 野坡  
 何物そよひしとさういおを愛ひ 一枝  
 親おやちあひつりるゝ 正秀  
 戸よこりるおの葉まは竹の門 横草  
 隠おや葉まはつりつりお 路通  
 ひくろこに別てふおの葉おを計 惟然  
 ちらくくおふし葉一非のお 芭蕉  
 有めはらつちのよまのまの 驥道  
 るめつらつておの池川非 馬肝  
 おの簾日の出てさうたのち非 野央  
 赤しとおおおまろくろのま 園更  
 せはは麻の毛くろておを白し 大江元

おお

お



松枝の芳気おのひうらぐれ 大江元  
み隠しあふまけし物しお柱 利牛  
風や天井くぐり堂の内 林紅  
お柱のうらうらおやと山折 大伴

風や秋のさうさうとく鳩の声 雨色  
風よこよふうりときさるに色お 乙由

風や井又かたれてまうまの 色養  
風よ紅の顔ひらむ入江お 露沾

風や鶴おさく陸の香ふらん 四醉  
風よこよふうりときさるに色お 元梅

風よいつとらうりときさるに色お 正秀  
風のおめあられおさるの鈴 陽和

風や鶯よかしくつくはる 蝶夢  
おさるやとらうりときさるに色お 澤望

お雪

そこのりのお雪をうらみ帯うり 氷谷

お雪やこえすくきおしおら 萬年

お雪やひらりふれさうら 畦足

お雪や人のとけんは朝のうら 桃隣

お雪や尾止の尻をうれてる 諸九

お雪や雪もしおしとてそお 巴人

お雪や松のふも一うまえ 百谷

お雪や雪の回つておまのたけ 佐角  
お雪や小枝よよくとら 配力  
お雪やまはらうのこけお 青蘿  
お雪よまはらうのこけお 青蘿  
笑よまはらうのこけお 鳥明  
落氷や神くけおる 其角  
子川の産うらおさるあしお 燕下  
山風の吹きうらけいお 氷谷

お氷

落氷

氷







其角 嵐もやそねりやんをん就

涼菴 唇のまにいつうそをりり

風律 さうむうひ橋うてそを就

蕪村 唇賦そそみはうんをん就

青蘿 堂の果の隣そそあそりり

芭蕉 冬拵そうれの破そ今知るそそお

千代 冬拵ひしり牡母のちそそお

窓芭 冬拵や唇そ本茶そうりり

蕪村 只初や五山嵐ふんそはのりて

杜若 那蘭やそあつら母のそは

古帆 那蘭や鉄つらそり我互具

芭蕉 那蘭やそ旦す亮のつらそく

大江丸 茶忘言そふくそそそり

大江丸 山もりのそねりそそお巨保邦

二柳 火燈せのそそん宗むお就

風律 ぶのこの里そやして火燈お

乙由 埋火や噴それい星一つ

浪化 埋火や後そより来るおのらう

青蘿 埋火そおそそ居ひんれお

芭蕉 赤の後拵そそる火拵うお

其角 白川の浪そとそ相火拵

存義 赤後そや火拵のかそそん

臥央 火拵抱てうそねうそおお

蕪村 裾そ垂てそよそを火拵お

祐昌 火拵抱て唇そふそおの場

壺中 火拵 そそおや火拵おのそ炭お

白雄 湯婆 一お二お後おたそお

酒堂 指 鶴や指そおの火のそう







ひのちちとすゝめかたけり 蕪村

山麓に ねんけいけんむふらねむ 昔蕪

こんむかへる海臣の門こく 二柳

茶心 茶の心の中こけりるる 千山

ねんむのたもるるこく本茶 去来

茶心や雪のこけりこく 浪化

茶心のまや庭こけりこく 涼菟

茶のむや白もまふもまふ 蕪村

茶心やひこくもまふこく 曉臺

茶心 履のこくまふにつけて本茶の門 牛寂

白木の流まてまふにまふ 木導

本茶のむや本茶のまふこく 月尋

大くこの海けりこくまふこく 逸渙

茶心のまふこくまふまふ 蕪村

す列て物こく本のまふ 大江丸

本茶 本茶こく電こけりまふ 祐昌

本茶 本茶こくまふまふのまふ 樗良

枯柳 雨まやかこく柳まふ 石丈

こけりまふまふまふ 涼備

冬牡丹 冬まままこく中まふ 團水

後まふまふまふまふ 乙由

水仙 茶のまふまふまふ 李冠

まふまふまふまふ 序令

まふまふまふまふ 野波

まふまふまふまふ 大江丸

まふまふまふまふ 蕪村

まふまふまふまふ 菽子

蕪村 茶心まふまふまふまふ



杜若

白圖

菖蒲 岩層よ小舟 枯菊 白りり 几董

枯草 ねお近れまの枯ま 雨をじ 千梅

枯萩 萩枯てる夏の海道ごらやう 惟然

枯蕨 一筋の 萩の ころる青 窓巴

枯芒 気をつけてみる程をじ 枯芒 杉風

枯尾花 おまふしてゆえ入ぬ 枯尾花 園更

枯尾花 ねくふ 枯つてくぬ ぬ 枯尾花 曉臺

枯芦 枯芦やあの日も のされ 奥 二柳

枯葉 枯葉 枯てて 枯てて 枯てて 園更

枯草 日いろ 枯草 まるく 枯草 蕪村

枯竹 枯竹 や竹の中 ぬるまのつ 園更

枯花 枯花 鳴 枯花 よ けく 白鳥 扣雅

鳥 鳥 けり や 枯花 意のま 欽坊

好 好 鶴の 蛇より くらふ くれの 邦 康工

り り くらふ 枯花 けり 乙由

綿 綿 けり 身 友よ 死ぬ けり 其角

い いく くらふ 枯花 ねれも 芥菴 蓼太

ぬ ぬ くらふ くらふ 枯花 部 曉臺

心 心と 死す くらふ 枯花 部 蕪村

石 石 落ち 下 列の 藪と くれ けり 養浩

泥 泥 長と くれ けり けり 碧川

麦 麦 花 や 一 畝 又 けり けり 半残

何 何 代 何 代 何 代 何 代 乙由

田 田 力 力 力 力 力 力 乙由



柱のしとこゆる細代の毎邦 曉臺  
川つゆきと吹ぬく細代も 其繼

打波のまねもこころ細代も 也有  
孫えよ月くそまき細代も 牧童

氷魚 月うけのくまけていより水魚 松壁  
氷凌は浪のさうわきも 我々

水鳥 氷凌と吹あつちりいふおし 蕪村  
あきやあつちりいふおし 青蘿

街 ありきの浪は鼻つゝわつが 乙州  
街つゆきや空田の葉新炊 千那

雪ふんて足提てこれつ街 元灌  
村も雪ふんて足提てこれつ街 杜若

おのつゆかいられいぬも 曉臺  
おのつゆかいられいぬも 曉臺

まぐね雪のちりや雪 几董

村雨の音もまぢりや 蕪村

くらの波もまぢりや 門懸

まねふんてまぢりや 松元

雨やんてせらるるまぢり 大は丸

やいらふんてまぢりや 雪芝

けららふんてまぢりや 芭蕉

鴨鳴やうらなふ田のまぢり 二柳

夕鶉の浮森こまぢり 風律

空のまぢりやうらなふ 文里

鶉鳴 空のまぢりやうらなふ 曉臺

東のまぢりやうらなふ 歌扇  
東のまぢりやうらなふ 北枝



東や雪や夕月も入らば 蝶夢

まきや雪のほせるはの松 鬼貫

海京や一途氷る雪の冬 除風

雪は枝やけふも海ありし心も 蜂房

雪は枝やけふも海ありし心も 麦水

雪は枝やけふも海ありし心も 尺素

雪は枝やけふも海ありし心も 枝東

雪は枝やけふも海ありし心も 許六

雪は枝やけふも海ありし心も 二柳

十二月

雪月 かんが月雪のうらみ嵐の如 杉風

一しかり雪もしりきり 朱迪

冬玉 雪の尾のそくくたやきりら 乙由

小山の日和もせらるる冬玉 百蘭

江波越て冬玉の如くなり 蒼洲

橋尾や吹のそよ風も 来山

彼幼 髪をよ枕の甘き又 一ツ 桃園

心華奈 口やくや吹華奈の酒のかん 竹戸

舞系 おかりももたうて 北枝

板部系や雪の音も 儿董

後と後 孫組とて 其用

燦 川越うつくんと 子葉

類とせ うけとせの 青流

子みふ 顔も世や人の 蓼太

街を月 山店

紫曉



神和

朔日の影ありれぬくもたらぬ 紫雲  
 一しちり臨てや雨のそらたぬ 魯中  
 瓢箪いりのよせぬまや并押 千葉  
 痛ハいらいとなくそ体たぬ 本導  
 夏よりつる霞をみや体たぬ 曉臺  
 体たぬらぬくも水のたぬ 蕪村  
 仏よりあぶるよと一神和 希因  
 体たぬき月おのこもこも 蓼太  
 旅人上刑とよけりもきのま 杜若  
 くのりこいふやまの行れ 獅吹  
 名木のそらのこもやけこの雪 乙由  
 てるまよあましとるねしき 其角  
 おれしとるまのひして雪れ 圃更  
 中そく六雪りやまぬ 杜若

雪

さとくく雪とてねす 千那  
 雪はや半と後のる猶ふとん 望翠  
 神鳴よ雪ふつとる 如行  
 雪の日や人とちうくは 嵐彈  
 小坊とや雪とこの竹とけ 風國  
 梳鳴家の音や 夫州  
 鳴とつとつとる 自樂  
 雪よ出てるのこふ 一音  
 大日様や小日様 蝶夢  
 白雪の中 夢天  
 牙ハねふる雪の 儿董  
 かとつとる 松兄  
 なす 湘水  
 たぬれ 涼菟

雪



雲吹 月夜しも言しもさぬらうと邦 秋之瑞

雲車 ひろも形く雲を好まむと冬に和 萍九

雲 みるもや都のそく洵り時 平夾

世屋のあらもたれしとれ邦 史邦

毎のまふの水よかさぬら真邦 夢太

雲 秋田は居れをうらとまうね 昌房

指きの山向こううらとまう邦 正秀

あまの大名もさるらとれ邦 泥足

ぬらぬら言の流らとまう邦 友静

後うらぬら言の流らとまう邦 白雄

修きやまを月夜と好みの時 曉臺

その時月あまらとまう邦 風國

大根 人言や秀たらこめて大根引 也有

きくくと根時とるや大根引 也有

葱 大根引て根風のきくくと 大根丸

葱 やひよと根のけ葱 畑 猿錐

葱 葱くぬぬめんや法の器もの 嘯山

葱 梅束のや葱は菜よぬらとまう邦 楠芽

丁菜 けふのまをうらうらう丁菜 髭風

茶食 土平せしせのたけは茶食 也有

葱 我のまけは木おとくさの湯卦 蕪村

根焼 冬料理綱と根焼とありまう 自柳

貝焼 貝焼

根汁 けうけともぬきとまてふとけ 芭蕉

根汁 根うらてまな言のうらぬらう 鬼貫

人んいくなを根とけひけん 太祇

後くハ佛も我もぬらうけり 大江丸

根汁の布ありくと灯たり 蕪村



ふくとけ灯をかきたてて喰はるま 希双

納豆 納豆まろとねれや味の雪にじ 丈艸

生海鼠 木の櫛のやうに思へ生海鼠が 乙由

お入てこいぬぬとるお入るまきか 蕪村

梅よこへまのけおされて海鼠が 二柳

乾鮭 乾鮭も空也の瘦もその中 芭蕉

うさけよこれたふしおれおの 祐昌

から鮭とつりくわやゆつ 雪芝

暖や鮭の吼るおの海 曉臺

七浦の人とつらと鮭とる子 沢尺

お具引 我ま正月お具引てお具引 二齋

十二月

ゆき かしらうゆきの海のおつらり 芭蕉

世の中ハ揃うう上のゆきを掛 如行

赤ころね小角豆も市のゆきを掛 正秀

母甲のゆきを小交る雀うれ 乙由

冬ぬるものゆきを平睡が 萬海

急いともぬくてねらぬゆきを掛 乙州

ゆきのゆきのゆきをの風が 青蘿

白くゆきの音ゆきをの市のお言 二柳

とくりくと栗つゆきを月影が 曉臺

いろしゆとるゆきと唐草 白雄

脛ハ 脛ハよし向の脛がぬえり 諸九

脛ハやまふおれつゝ脛一人 圃更

寒念仏 寒念仏 念念佛向る脛もおららん 康樂

父もぬく母もかゝたきと志松 大江丸

お念仏や氷もる脛を首がけ 諸九







節事の せしは報謝のふせうけり 鬼園

せしはや曾ふつく袋拵 浪化

節分 豆と赤声の中なる笑み 其角

鬼が赤太のや豆のあや見 糺

糺賣 於て價出を日ふりかたり 柳水

鬼わつてくつらつら 於て糺賣 杵丸

年忌 魚子のふかしくは年忌 芭蕉

お人のふかしくは年忌 乙剛

木履のふかしくは年忌 幽泉

人ふしくは年忌 杉風

こひさすはれしねや 曲翠

あかしくは年忌 祐昌

年忌 居風はまゝは踏や 乙由

とくはめはまゝは踏や 千代

年のうらひまはまはまはま 大層

常の麻恋ははね一年はま 希因

善道 まるく指はまゝはまはま 亀洞

ねせせぬまのねまゝはま 杵丸

善法 灯火の花まゝはまはま 鬼貫

一儀の善やまはまはま 諸九

年尾 子の尾まゝはまはま 乙由

この尾まゝはまはま 乙由

末木 けしはしは繩おしや 瓢竹

溪の戸まゝはまはま 竹阿

年市 雪かまゝはまはま 乙由

年の市おぼはまはま 乙由

この市まゝはまはま 蓼太

撰乞 松風のうはまはまはま 團更



小昔 羽たうとしたのむらうれ小昔日 蝶夢

大昔 鶴下る日さくらんた大昔日 其角

あつた月京の柳や大二十日 移竹

月一人あふの二月ころ 仙化

の年 ひじしや木紫交うのくひ炭 沙明

り年やうとよくれ牛の角 青蘿

りくくや海ふらふささ書 其角

りくくや源の内終るくさ書 米菊

りくくやあもくかぬねの風 燭國

筆書 はくくくふくふ流れはじのれ 野境

筆書 新花もひくくふ年らくくふく 千代

から蛙の月もぬけはくくはのれ 梅貞

居ぬくはのたやらをすまはれ 橋良

新花とくくくくくくくく 米童

拾のけくかひあれくくはのれ 芭蕉

養りくくくくくくくくく 斗入

年守 くるくくくくくくくくく 蕪村

大冢 大くくくくくくくくく 萬手

大冢や新波堀の鴨の夢 春幾





大阪 淺野高造筆

文化八年辛未  
八月吉日刻成

江戸書林

西村源六  
角丸屋甚助  
須原茂兵衛

京都書林

浦井徳右衛門  
菊舎太兵衛  
野田治兵衛



大阪書林

平野屋宗七

秋田屋太右衛門

布屋忠三郎

鹽屋平助

鹽屋忠兵衛

藤屋徳兵衛

敦賀屋久四郎

今津屋辰三郎

藤屋善七

大正拾四年

九月二日

細川忠房

家井





美月園

藏書